

情勢報告（令和２年３月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

令和元年度の普及活動内容について意見交換 ～令和元年度第2回嶺北地区農業改良普及推進協議会～



普及活動実績を説明中

２月２７日に普及所で第２回農業改良普及推進協議会を開催しました。農家代表と関係機関からなる委員１１人に対し、令和元年度の普及活動実績の報告や、令和２年度の活動方針（案）を説明し、普及所の取組について意見交換しました。

「カイゼン」で調整作業の効率化を進めた取組では「作業効率が向上し、従業員の志気も高まっている」と委員から発言がありました。また「栽培面積を広げたいが雇用労力を確保するために、大切なことは？」などの質問もあり、活発な意見交換ができました。

普及所は、委員からいただいた意見を来年度の普及活動に活かしていきます。

Nターン誘引にチャレンジ！ ～ミニトマト視察研修～



Nターン誘引

３月２日、大豊町のミニトマト生産者１人とともに、黒潮町のミニトマトほ場のNターン誘引を視察しました。

大豊町のミニトマト栽培では、労力不足から、誘引や収穫作業が追いついていません。そこで、省力可能な誘引方法であるNターン誘引について、栽培上の注意点、長短所を確認しました。

生産者は「葉が混み合っていないので収穫が楽そうだった。自分も挑戦してみたい」とNターン誘引に取り組むことになりました。

普及所は、Nターン誘引が成功するようサポートし、その省力効果について調査していきます。

嶺北産ユズの生産拡大にむけて ～剪定講習会を開催～



剪定講習会
の様子

３月３、５、９日、JA高知県れいほく園芸部ゆず部会、無農薬柚子部会は、大豊町と土佐町で剪定講習会を開催し、計２７人が参加しました。会では、普及所から剪定のねらいや手順、枝の切り方等を実演して説明しました。

生産者からは「作業性、採光、通風を改善するために、除去する枝、残す枝のポイントが解った」「収穫量を安定させるために、施肥や樹作りをしっかりとしよう」という声が聞かれました。

普及所は、本年度、新植する生産者や新規栽培者が多いことから、JAや部会役員と連携し、幼木の管理等を指導していきます。

来年度の栽培にむけて ～ミニトマト部会～



来年度の栽培協議

3月4日、JAは大豊町でミニトマト部会の生産者を対象に栽培講習会を開催し、生産者5人が参加しました。

普及所は夏期の着果を安定させるマルハナバチの利用や草勢の見方など、新品種‘サンチェリーピュアプラス’を考慮して改定した栽培暦と防除暦、GAP点検について説明しました。

生産者からは「新品種はヘタ落ちや裂果が少ない。夏期の自然着果はほとんど期待できないのでマルハナバチを利用する必要がある」などの意見が出ました。

今後も普及所は、省力化や増収にむけて支援します。

今年の作も頑張るぞ！～甘長トウガラシ視察研修～



育苗状況を確認中

3月10日、甘長トウガラシ生産者2人が、苗の管理と他産地の栽培技術を学ぶため、公益社団法人高知県種苗センターへ視察研修しました。

生産者からは苗の適正な管理温度や、ほ場での仕立て方法について質問が出され、「摘心の位置や収穫後の枝の切り戻し方法は参考になった。次作の管理に活かしたい」という声が聞かれました。

普及所からは昨年課題となった、生育初期の適正かん水管理について指導しました。

今年から新たに3人が栽培を開始するので、JAと協力して生育ステージごとのポイントを指導していきます。

来年度の栽培にむけて ～JA開発部会ショウガ生産者反省会～



来作の栽培協議

3月16日、JAれいほく支所でショウガの生産者を対象に反省会を開催し、生産者6人が参加しました。

普及所は昨年発生があった白星病対策と土壌消毒の実施方法について説明しました。

生産者からは「白星病では予防が大事だ」や「夏場の土壌消毒についても検討したい」などの意見が出されました。

今後も普及所は、ショウガの安定生産を支援します。